

# 理事長挨拶



## 第6代下野毛工業協同組合理事長 森克己

いつも組合運営にご協力頂き、ありがとうございます。

現在、下野毛地区の事業環境は様変わりしており、昨今の急速な宅地化により準  
工地としての地位が揺らいでおります。組合としては下野毛町会との共催として、  
秋のふれあいフェスタ開催、又、冬のオープンファクトリー開催と、地域住民との  
融和に努めて参りましたが、昨年のふれあいフェスタでは一部住民より、音がうる  
さいと交番に苦情が入り、警察官の事情聴取を受けました。幸い、事無きを得たの  
ですが今後課題を残しました。

また、2月に行われたオープンファクトリーでは、アンケートによりますと様々  
な意見を頂き、その中に「下野毛に住んで居ますが、工場の内容が解る事は良いこ  
とです。物造りの町として栄え、誇りある町として自慢したいです。」という意見が  
あり、非常に勇気付けられました。

今年は組合に二つの慶事がありました。

一つは、永年勤続五十年表彰を受けました、今野工業(株) 鍵屋清作さん。  
もう一つは、県知事表彰を受けました、佐々木工機(株) 佐々木社長です。  
事業環境が変わる中、キラリと光る企業、及び従業員が存在します。  
これからも皆様が切磋琢磨し、活気のある組合にしていきたいと思います。

# 下野毛ふれあいフェスタ ウォークラリー&バーベキュー から考える今後の事業

匠 編集部



2015年10月25日 今年も「下野毛ふれあいフェスタ」が開催されました。晴天にも恵まれ町会の皆様やヒロキ産業様にも共催、お手伝いいただき今回も無事、盛況のうちに終える事ができたと思います。理事の皆様はじめお手伝いいただいた組合員の皆様やご家族、川崎市産業振興課の皆様、専修大学遠山ゼミの皆様、川崎フロンターレの皆様、そしてご来賓の皆様がこの場をお借りして改めて御礼申し上げます。ありがとうございました。

さて、事業後の理事会やブロック集会では「ふれあいフェスタ」や「オープンファクトリー」などの今後の事業展開について今まで以上に話し合いの時間が持たれました。

福利厚生事業や健康診断以外にも魅力的な事業が展開されていますが、いかんせん事業を企画、運営する実働部隊の人数が少なく一年中企画や運営準備に時間を割かれているメンバーがいるのが現状です。

とはいえ若手メンバーは年々パワーアップしているので、単純に事業を減らせば良いということでは無く何のために事業をやっているのかを今一度皆で確認、共有して事業を統合するとか考えていかないとパンクしてしまう可能性もあります。

時代の変化と共に同じような事業でも意味合いが変わって来たり開催する場所への配慮も必要となってくる中、皆様からも今後の事業展開について忌憚の無いご意見を頂戴できればと思っています。

今後とも組合の事業にご理解ご支援を頂戴いただきますよう重ねてお願い申し上げます。



# 2016年 新春のつどい

渋谷 薫

毎年、組合新年会では前半は研修会、後半は演芸会と頭を使う勉強会の後は呑んで歌って大笑いの宴が続きます。

前半の研修会は（マイナンバーの実務について）LR小川会計様より講演が行われました。

このマイナンバーのテーマの勉強会は以前組合で行われましたが内容が今ひとつ解らず、もう一度マイナンバーについて知りたいと言う意見が多数ありこのたび行われました。

従業員さんを抱えている企業さんは自社での取り扱いが厳重にしておくことが大事だと教わりました。重要なテーマなのでまだまだ不十分ですが少しずつ理解出来る様にして行きたいと思います。

後半の演芸会では2組の芸人さんが登場しました。

1組目は姉妹漫才の「ニックス」

女芸人なのでおじさん達も興味津々でした。

会館の雰囲気慣れるまで少し戸惑っていたような気がしましたがこちらのツボが解るとどんどん引き込まれていきました。

2組目はマジックの「ドリームかずよし」

こちらも喋りが上手で誰がみてもわかるマジックなので、すんなり入れました。軽いネタから徐々に驚きのネタへと流れて行きました。途中で私と目が合いお手伝いを要求されました。もちろん打ち合わせがあるわけもなく舞台上に上がりました。さすが芸人さんですね



鋭いツッコミを入れる会員さんを笑顔とジョークで対応するところは営業マンなら敏腕でしょうね。

実のところ懇親会からが本当のお楽しみです。

日ごろ芸人さんとお話する機会など無いのでみなさんいろいろ質問をしながら会話を楽しんでいる様子でした。

下野毛工業協同組合ならではの懇親会で余興はこちらの方が断然盛り上がり、ニックスさんは椅子の上に乗るみんなの顔が見えるように懇親会用のネタも披露してくれました。これは毎年懇親会でのネタ披露が定番だから事務所から言われている事だと思いました。

ドリームかずよしさんの場合はテーブルごとに回り、手品のネタを見せてもらいましたが、まったく解らず何度もやってもらいましたが見抜く事が出来ず最後はネタバラシをしてもらいました。

気に入った芸人さんがいると何度も来てもらっています。今回はどうでしたか？  
新年会を通じて、会員同士が楽しく交流出来る場でありたいですね。  
また来年お会いしましょう。



# 2016年2月 第3回 オープンファクトリー無事に終了。

企画開発 櫻井 秀一

当日は晴天に恵まれ、来場者の数も 240 名を超える大盛況となりました。事故もなく、来場者にも喜んで頂けたようです。(アンケート等から)

そんな中、興味深いエピソードがありました。

まず、『近隣の方がお菓子の差し入れを持って見学に来てくれた。』

さらに、『見学に来てくれた学生さんが見学した工場に就職を希望し、採用に至った。』(谷田部精機) という話も聞きました。

実際に新卒で入社された方を訪ね、少しお話をして来ました。とっってもフレッシュで生き生きとしていました。真面目そうな彼の『頑張ります』なんて言葉を聞くとほころんでしまいます。

はたしてやる意味があるのだろうか・・・等と言われていたオープンファクトリー。

全く手探りでやって来ましたが、先にあげたエピソードや『近隣の方々と挨拶をかわすようになった』等の話を聞くと、こみ上げるものがありますね。

今回新たに参加して下さった企業様により感想を頂いておりますのでご紹介致します。

初めに 『株式会社 KGM 温井輝彦』さんからのご感想！

この春、高校を卒業した 1 人の若者が弊社に就職しました。彼はこの度のオープンファクトリーに参加し、いくつかの工場を見学したことで、ものづくりに興味を深め、弊社に就職希望を出してくれました。

下野毛工業協同組合のオープンファクトリーの目的は幾つかあると思いますが、PR からわかるように地元への理解、共存が大きなテーマだったと思います。弊社としましても、この春に工場を下野毛の地に新設したこともあり、オープンファクトリーへの参加はとても重要な位置づけでした。

実際参加してみて感じたことは、もちろん地元の方々との交流の大切さ、同じ地で事業を営む仲間意識など、改めて実感したことは多くありましたが、何より感じたことは、若い世代へのアピールでした。

子ども達の夢の多くは時代によって多少変わるとは思いますが、プロスポーツ選手や、医者、

科学者、警察官、ゲームクリエイターなど、いつの時代も目に見える想像しやすいものです。今回就職をした弊社の社員は、工場を見学することによってものづくりを肌で感じ、想像できたから希望してくれたように思います。

地元への還元、共存の理想の先は、ここに住む子供たちが、ものづくりに自然と触れ、関心を寄せ、この国の産業を支える町工場へも、夢を持ってくれることなのではないかと思いました。それが見える形にしているこのオープンファクトリーの取り組みはとても素晴らしいと感じましたし、その参加企業の一員になれたことを嬉しく思います。

株式会社 KGM 温井輝彦

続きましては『有限会社田澤合金 製造部 田澤宏史』さんからのご感想！

今年で三回目の開催となるオープンファクトリーへの参加の申し入れを受けると社長から聞いたときは、下準備や安全面の配慮など負担を伴うだけと思い、私一個人としては参加には消極的でした。

ちなみに、私は、鑄造業を営んでいる有限会社田澤合金の一社員です。

鑄造とは、金属を溶かし液体状にしたあと、それを型に流し込み、冷やして固める加工方法です。

その流し込む型を鑄型と言い、出来た製品を鑄物と呼びます。

鑄造方法には、色々な種類があり、中でも砂で鑄型を作る砂型鑄造法は古代から存在する加工方法です。

わが社では、そんな歴史のある砂型鑄造法を専門として事業を行っています。

そして、オープンファクトリー当日をむかえ、わが社では鑄物・鑄型の展示、砂型鑄型作成の実演を地域住民の方々に提供しました。

いざ、開始時間になると、受付場所が近いという立地条件からか多くの人達が押し寄せてきて、最初は口頭での仕事内容や製品の説明、質問への対応に戸惑いました。が、どのお客さんも事前の注意事項の説明がよく行き届いているおかげで、製品に触れたりせず、順路に従って見学してくれて、怪我などの大事もなく滞りなく進行する事が出来たので、こちらもお客さんの意識の高さに好感を持ってました。

提供したものの全体を通して、反応が良かったのは、製品の1つである餃子の型や鑄型作成の実演がどの層の方からも好評でした。やはり、イメージしやすいものが興味・関心に繋がっていくのだと感じ、他の企業さんが行っていた「体験コーナー」は更に関心度が高くなる方法だと思いました。

このオープンファクトリーという行事に携わった結果、普段接点のない住民の方々との直

接的な交流ができて、交流によって私自身の製品に対する知識（製品の用途など）の向上や見学人数の多さからも製造業への関心が伺えて大変有意義な経験でした。

しかし、このまま継続的に行うのであれば、参加企業数を増やすのが前提条件だと思います。

ただ単に、人手が足りないことと、いずれマンネリ化が進み、対象者である住民の方々の興味・関心が薄れることに繋がっていく。よって、参加数を増やしていく上で企業側の理解を深めるためにも、より組合員同士の交流の場が必要だと思います。 以上

有限会社田澤合金 製造部 田澤宏史

いかがでしたでしょうか？

見学に来てくれた方々はもちろん、参加して下さった企業様も楽しんでいただけたようです。どうです？『次回の開催には是非参加したい』と思って頂けましたか？（笑）

この場を借りて改めてお礼を申し上げておきます。

参加、協力頂きました企業様、本当にありがとうございました。

感想まで書いてくれた温井さん、田澤さん、本当にありがとうございました。



# 第3回 下野毛工業協同組合の オープンファクトリーに思う

(有) 三成電機製作所 井出 忠勝

私の会社は1969年4月に下野毛で設立いたしました。その頃は周りにあまり住宅も無く一面ネギ畑でした。毎晩遅くまで残業してネギと競争してどっちが大きくなるか頑張ってきた時もありました。

あの頃が懐かしく思う今日この頃です。

今は工場が無くなるとその跡地に住宅が建ってしまい私の会社のような音の出る工場は大変です。

今年は私の会社がオープンファクトリーに選んでいただき近隣住民との対面が出来る喜びを感じましたが、最初は何人くらい見に来てくれるか心配でしたが、始まってみると対応出来なくなるくらい沢山来てくれて良かったです。

この頃は学校も企業訪問や職場体験に積極的に参加させる傾向で親と一緒に働く姿を見て廻る子供たちの目の輝きに私は思わず子供たちに「超小型蝶番の組立をやってみますか？」と声をかけました。大人も子供たちも一緒にやらせてみると子供たちの速さにビックリボン！子供たちが自分で組立てた蝶番をお土産にあげると喜んで大事に持って帰りました。

また従業員がタップ切の作業をしていると子供が「やってみたい」と言うのでやらせると



タップ機械が音をたてネジを切る。そして自分の作った製品を手にとって笑顔で見る姿に喜びを感じたとのことでした。

私の会社が近所の人に見学していただきありがたく思った次第です。これからもオープンファクトリーはスタッフの皆様も大変でしょうが、もう少し続けていただきたいと思います。という次第です。



# 『共に生きる』 ～住工混在の町 下野毛～

有限会社トワダ 阿部 早苗

今、下野毛が抱えている問題・・・それは、工場の跡地にマンション、そして建売住宅が立ち並ぶようになり、私たち工場と住宅との共存についてです。

8年前、弊社をL字で囲うように建っていた会社が事業を畳み、手が届くような距離に建った8棟の建売住宅。建設が決まったときは、もの凄く大きな不安にかられました。「苦情が来てからでは、遅い」と考え対策を講じました。

まず最初にはじめたことは、看板です。

- ①“川崎市経済労働局”の名前で「準工地」であることを知らせる看板
- ②“下野毛工業協同組合”の名前で「ここは準工業地として発展してきた地域で、多くの工場があり、騒音・振動等が発生しますが、この地域にお住まいになる方にご理解頂き、共存していきましょう」という看板
- ③そして“弊社の名前”で「仕事の内容についてお知らせする看板」

この3本を立てました。この看板はどこまで効果があるか？半信半疑ではありましたが、何もせずにはられませんでした。

入居が始まると、住民からご挨拶に来てくださる方もいらっしゃいました。ご挨拶にいらして頂けない方はこちらよりお伺いし、「弊社は、金属で部品を作る会社です。金属の板を切るので、振動・騒音がありますがご理解ください。もし、我慢できないことがあれば、その時はお声掛けください」と会社の説明を兼ね、一軒一軒ご挨拶にまわりました。幸いにしのご理解くださる方がお住まいで、当初は大きな問題は発生しませんでした。

コミュニケーションは大切だと考え色々な工夫をしました。

まず町会の理事になりました。町会の理事は、町会費を集めたり、募金の集金・回覧板や冊子を配ったり・・・と定期的に近所を回るので、ご近所さんに顔も覚えて頂けたり、お伺いの都度「騒音・振動はどうですか？」と様子をお聞きすることもできました。

また、主婦の方がゴミ捨てに行く8時前後に合わせてゴミ捨てをし、ご挨拶や立ち話をすようになりました。こうすることで近所の方と仲良くなり、多くの情報も得られます。立ち話を通し分ったことは、住民は工場との問題を抱えることにはなりますが、住宅同士のトラブルも抱えているということです。

「あそこの犬がうるさい」、ゴミ捨ての問題、公園の猫の糞に悩んだり・・・等、

色々あるようですが、引っ越して来る方たちは、知らない土地に越してくるので、なにか起こっても誰に相談していいのか、分からないのです。先にいる私たちが、そんな相談に乗ったりすることで、信頼関係も作れていくと思います。

ご近所さんに恵まれ、仲良くしているので、苦情はこない・・・と思っておりましたが、とうとう弊社にも苦情がきました。そのきっかけは、昨年11月に機械を入れ替えたことです。

問題は、振動です。機械を入れ替えることは、お隣さんにはお話ししておりました。以前の機械より、振動や騒音も大きくなりましたが、朝8時～夜8時までの稼働としていたので、苦情は来ないと思っていたのです。機械を入れ替え、一ヶ月たったある日、お隣さんにお会いしたので「新しい機械になってどうですか？」と聞くと、「前の機械より、振動が・・・でも、私が慣れればいだけだから・・・」と言っておりました。その一ヶ月後にお会いした時も、同じ会話になったので気になっていました。

三ヶ月がたったある日、とうとうお隣さんが弊社にやってきたのです。「後から引っ越してきて、こんなことというのは申し訳ないんだけど、振動が・・・」とのこと。よくよく話を聞いてみると、機械が“ダン・ダン・ダン・ダン”と板金を打ち抜くと、その振動で、食器が“チャン・チャン・チャン・チャン”となるのに耐えきれなくなったというのです。そこまで、ひどく振動しているとは思っておりませんでした。「これからもここでやっとう！」と思っている弊社としては、何もしない訳にはいきません。対策を考えました。

機械メーカー・建設会社・行政・振動の研究を専門されている客員教授と多くの方々に相談致しました。実際、震度計で振動を計りましたが、幸い準工地での振動レベル範囲内であったものの、やはり対策は必要だと、皆さまに経験談やアドバイスを頂きました。振動は音とは違い、対策を講じても効果が出るかは分からない、とても難しい問題だということを知りました。対策を講じて、お隣の振動は弱まるかもしれないが、そのお隣が揺れたりすることもあるとのことでした。

色々な方に相談した結果、今回はまず防振機を機械にはかせることにしました。そして、防音対策として換気扇にダクトを付け、音が直接漏れないようにしました。この報告をお隣さんにすると、お隣さんは「そこまでしてくれるなら、もし効果がなかったとしても、これ以上、何も言わない」と言ってくださいました。結果、効果を発揮！無事お隣さんの振動は弱まりました。お隣さんからは、「振動がだいぶ減ってます。どうもありがとうございます！」と直ぐにラインが入りました。

今回感じたことは コミュニケーションがとれていれば「問題」が発生しても「トラブル」にならないということです。また、住民は住宅購入時の状況をみて住はじめるので、「機械の入替」「会社が入替わる」等の変化が起こることは想定してないことがわかりました。ここまで、準工地に住宅が立ち並んでしまった今、「工場」と「住民」私たちは、もう共に生きていくしかないと思います。「後からきたのに、苦情を言って・・・」と住民に“敵対心”を持っていては、私たちは今の場所にはいれなくなってしまいます。

今回、苦情を訴えてきたお隣さんは二人のママです。お兄ちゃんは、この春から小学生になりました。ランドセルを自慢げに見せてくれました。弟は、元気に幼稚園に通っています。

いつも窓の外から、私の名前を呼んでくれます。これからも、近所の子供たちの成長を楽しみに、笑顔で挨拶しあえる地域にしていきたいと思います。

# 第25期通常総会報告

(有) 山口精機 山口 晃幸

下野毛工業協同組合の第25期通常総会が平成28年3月25日エポックなかはらにて開催されました。

原副理事長より開会宣言、続いて森理事長の挨拶の中で当期中に亡くなられた会員の方々へ黙祷が行われました。その後、佐々木副理事長が議長に選出され、渋谷理事が書記に任命されました。

第1号議案 平成27年度事業報告及び決算報告承認の件

第2号議案 平成27年度会計監査報告

第3号議案 平成28年度事業計画案及び予算案承認の件

第4号議案 平成28年度借入れ限度額の件

森理事長から以上の議案報告があり、質疑応答の後可決されました。

第5号議案 役員改選の件では理事長は再任、原副理事長が退任され他3名の副理事長が再任、新理事についても異議なく承認されました。

新理事長挨拶の後、議長並びに書記解任され、今野副理事長の閉会の挨拶で総会は閉会となりました。

続いての永年勤続者表彰では勤続10年表彰者8名、勤続20年表彰者4名、勤続30年表彰者1名、勤続50年表彰者1名の合計14名の表彰式が行われ、賞状と記念品が贈られました。中でも勤続50年表彰者の今野工業(株)鍵屋さんへの拍手は一段と大きいものがありました。

その後は隣の会場で懇親会が行われ、理事長挨拶の後、来賓の方々よりたくさんの祝辞を頂きました。カラオケで盛り上がる中、閉会となりました。

私は今期から理事になりましたが、勤続10年とまだまだ未熟者でありますので役員、理事をはじめ、先輩の方々にフォローして頂けると助かります。何卒よろしくお願い致します！



# 勤続50年の表彰をいただいて

1B 鍵屋 清作

協同組合の3月の総会で、勤続50年という事で森理事長より夫婦共々の表彰をしていただきました。

学校を出て故郷秋田から就職列車に乗って上野駅に着いてから50年以上が過ぎた事になります。 都会にあこがれて歌手を夢見た少年が今年70歳になる!! マジ?

今までいろいろな事がありましたが、ここまで来れたのもやはり健康な体に産んでいた両親に感謝。又会社の皆様の支えが無かったらここまで来れなかったと思っております。

理事長がどうしても奥さんも一緒と言うことでしたので同席させていただきました。

大きな花束をいただき感激の顔で喜んでいる「かあちゃん」の横顔を見て、今まで頑張っ  
て来て良かったとつくづく思いました。

これから先大して長くは無いと思いますが、体のつくづく限り会社又組合の為に何か協力出来ればと思っております。

理事長初め役員の皆様ありがとうございました。



# 新理事になって

株式会社上田製作所 上田 勝身

2016年4月から新理事になった上田です。ブロック編成で、4ブロックから1ブロックに移りました。下野毛工業協同組合は、さまざまな、専門技術を持った独立企業の集まりですから、その一つ一つを知る事は、とても参考になります。今年、オープンファクトリーに参加した時は、二部制でしたので自社が、終わった後、他の参加企業さんを見学する事が出来てとても良かったです。

それぞれの企業さんに、いろいろな事情があると思うので、組合の活動としては、親睦・情報交換、共有する問題の対処などが、有効かな、と思います。実際に、組合は外部の方々の窓口になっていますし、オープンファクトリーなどでは、地域の人たちに工場の存在を理解してもらうのに役立っていると思います。最近では、工場見学の依頼が多くなっているように感じます。うちの会社では、ここ何年か東高津中の「職場訪問学習」を受け入れています。安全面や内容の検討、直接担当した者は、その間仕事を進めることが出来ない、など、負担は、あります。でも普段とは違う時間、予測出来ない第三者の目、などは自分や社員に「良い影響を与えている」と思っています。

今年の4月から私は保護司をやる事になりました。保護司は、裁判所で保護観察になった人の助言や指導、刑務所や少年院に入っている人の出所後の生活環境調整、地域での犯罪予防のための啓発・宣伝活動、などを行います。正直、不安はありますが、まわりの人の力を借りて出来るだけやりたいと思っています。高津区には、約40名の保護司さんがいます。そのうち下野毛は2名です。もう一人のWさんも組合に所属している人です。組合は、いろんな角度から地域に貢献している（しようとしている）と思います。

新理事になって、以前とは違う立場で見えるようになってきたような気がします。これからの活動、無理しないで精いっぱいやっていこうと考えています。上田製作所の前を通ったら更生ペンギンの「ホゴちゃん」に気づいてください。そして、ちょっとだけ、やさしくなってもらえると、うれしいです。



# 神奈川県知事表彰& 川崎ものづくりブランド

佐々木工機株式会社 佐々木 政仁

平成 28 年 1 月 21 日に神奈川県庁に於いて黒岩神奈川県知事より優良小規模企業者表彰を受けました。

神奈川県優良小規模企業者表彰制度は、平成 27 度新たに制定された表彰制度です。弊社は第 1 号として表彰されました。

県内に事業を有し、ものづくり関連の事業を営む小規模企業者のうち、独自の技術、工法、発想による商品化、事業化をしている者や長年にわたり地元で根ざした活動など地域活性化に貢献している者など、特筆すべき実績を残している又は特徴的な経営を実践している者を神奈川県優良小規模企業者として表彰します。

この表彰制度は、小さいながらも、きらりと光る技術や製品を持っている小規模企業者に対して、更なる発展を期待するものです。

期待にそえる様、今後も頑張っていきたいと思えます。

つづいて川崎ものづくりブランド認定についてのご報告です。弊社が世界的精密測定機器メーカー株式会社ミットヨと特許実施許諾契約を結び独自に開発した「真空吸着ツールスタンド」が第 12 回川崎ものづくりブランドに認定されました。こちらは平成 28 年 7 月 6 日に KSP（神奈川サイエンスパーク）にて認定式が行われました。川崎市の知的財産交流事業がきっかけとなった成果の一つです。



**エアコンプレッサーの圧縮空気  
を利用した測定用ツールスタン  
ド。**

---

真空吸着ツールスタンド  
小型かつ軽量のためどの位置でも  
固定が可能で、石定盤やセラミッ  
ク定盤の上でも高い吸着力を保持  
しながら使用することができ、作  
業性の大幅な向上が可能。

---

佐々木工機 株式会社

川崎市知的財産交流会は、大企業の研究機関と技術力のある中小企業がともに集積しているという、川崎市の産業特性を踏まえ、知的財産を媒介として市内中小企業と大企業との交流促進を通じて、新たなビジネス開発の構築や、中小企業における知財経営の意識啓発を図ることにより、地域産業の活性化と競争力の強化を目指した取り組みです。平成 19 年度に、川崎市の策定を進める知的財産戦略のモデル事業としてスタートし、翌 20 年度より「川崎市知的財産戦略」の推進プログラムの重点事業として実施しています。





# 川崎ものづくりフェア2016

渋谷 勲

川崎フロンターレ様主催+川崎北工業会様・専修大学様・下野毛工業協同組合とで力を合わせて作り上げている会でナイター試合前に昼間サポーターの皆様や近隣住民様やサッカーファンを温かくお客様を迎え入れるというイベントです。

今年は一味違うフロンターレさん、もしや1stステージで優勝かと思いきや、まさかの2位、期待していたのに本当に惜しかった。でも気持ち切りかえてフロンターレさん2ndステージで優勝目指して暴れちゃって下さい。

選手の皆さんお疲れ様でした！！



私も気持ちを切り替えまして、本題に入ります。

いつもでしたら、その年の事を振り返り、あの日は暑かったとか寒かったとか、いろいろと思い出して書いていましたが2016年のものづくりフェアは9月10日(土)なのでまだ、その日を迎えていません。

今年の下野毛工業協同組合は一味違う刻印打ちを作ります。

企画開発の皆と話し合い打ち合わせをしています。誰か一人言うとなあれやこれや出るものですね、段々と現実離れをする事も出てきました。そんな中、一言これ【アルミプレート】の事ですが、その上に何かもう一枚のせて360°回転すると面白いよねーとポツリ発言がありました。そう石井さんです！流石です！みなさん普段の仕事で培ったアイデアを盛り込みながらいろいろな機構技術が出ますね。凄い！これぞ工業！そこからは早いものです。ある程度の形をイメージしながら、ここは穴だから、ここにかからない様に、この寸法で行こうやら、ダメだ、こうだ、とか、まあ出てきますね。それでは次の部会までに携わった会社さんに割振り製作へと話が進みました。2週間後の部会たたき台で製品を持ち寄りました。今回は山口精機さんと、うち(シブヤ)の2社です。山口さんはアルミ材のハトメ金属(スリーブ形状)のもの、それと樹脂ブロックからMCで削り出したTシャツ形状のものと湾曲形状のプラスチック製品です。2種類ほど案を出し製作しました。これで良ければ金型を作り⇒成形をして数百個作る予定です。

同じく山口さんにも数百個作って頂く事になります。

企画開発の皆様は良いねと言って頂けますが、果たしてフロンターレ事務所様にプレゼンをしに行くのが楽しみです、どうなる事やら！！

# 企画開発チームの現状

有限会社トワダ 阿部 裕之

「私が理事長を終えた時には、ここに居る君達を中心となり組合を運営して行く事になるのだから」と理事会で森理事長は言いました。現在、企画開発チームのメンバーは2代目の30～50代が中心となり運営しており、そのほとんどが副理事長、理事を務めています。

ここ数年で新たにメンバーに加わった人もいますが、少し大きな事業を行うには行政の方や大学の学生達に手伝ってもらおう事で何とか成り立っていて人数不足が、まだまだ問題となっています。

定例会は月に1・2回程度で毎週水曜日、夜7時～9時に開催しており、次に行われる事業の企画を煮詰めて行く事で大半の時間を費やし、開発の方まで時間を使う事はままなりません。

そのため、組合では今まで毎年恒例で行われているイベント等の内容や回数を変え、良いところを残しながら新しい考えを取り入れようと日々模索しているところです。

組合企業数が年々減っている中で、中心をとなつて活動をしているメンバーは今後も下野毛で仕事をしていく上で本当に大切な事が何かを考え、何をすべきか真剣に考えています。

まずは総会、そして今後も定期的に行われていくと思われるオープンファクトリー、下野毛ふれあいフェスタ、ブロック研修会等の事業からで良いので、参加して頂いて、その上で、興味が湧いた方、入会しようと考えている方は、是非企画開発チームの誰でも良いのでお声掛け頂いて、私達と一緒に下野毛工業協同組合を盛り上げていきましょう！

宜しく申し上げます。

## 編集後記

1年間の事業を振り返ると年々パワーアップしているのを実感します。  
きっと限界という言葉は使ってはいけないのでしょう。

いただいた原稿をチェックしていて思わず涙ぐむほど素敵で素直な  
文章がたくさんあります！誰かのまねになりますが「やっぱり下野毛って  
サイコウだな」

### 広報部員

今野工業（株） 今野辰裕  
（有）シブヤ 渋谷 薫  
（有）トワダ 阿部裕之

下野毛工業協同組合

TEL 044 - 833 - 8100

FAX 044 - 833 - 1605

E - mail : info@shimonoge.net

編集部一同

## 機関誌 たくみ 35号

発行者 下野毛工業協同組合  
理 事 長 森 克己  
編集委員長 今野辰裕  
印 刷 日本プロセス株式会社

表紙題字 (有)日公精機製作所 高橋佳久